

# JA自己改革推進レポート（JA鳥取中央）6月号

## 1. トップセールス、TV会議で特産PR！（市場と連携強く）

取引指定市場である大阪青果および東京青果と、管内の主要特産物であるらっきょうとすいかの販売促進テレビ会議を開催した。2社はJAの特別重点指定会社である。

参加した市場によると、総合農協が市場と直接繋いでテレビ会議をするのは全国で初。栗原隆政組合長が今年の青果物販売への熱い思いを伝えた。会議は全営農センターでも視聴可能にし、担当職員もリアルタイムで視聴した。

栗原組合長は「生産者の心配や苦勞に報いるように、最善を尽くす。こういうときこそ産地と市場が築き上げた信頼、絆、連携の成果を発揮し、メイン特産物の良いスタートを切りたい。JAと市場の連携で販売に全力で向かう」と意気込んだ。



## 2. 営農支援隊を発足！（生産者をサポート）

令和2年度の機構改革で、組合員らの農作業を支援する専属の営農支援隊を立ち上げた。

支援隊は20代～40代の職員5名で構成。農作業やJAグループ内の選果場などの業務支援で農業振興を進めていく。選果場や生産者の人手不足を解消し、農業生産の向上につなげる。また、らっきょうの切り子や梨の交配作業等に対応しながら、職員の営農技術の能力アップにもつなげる。

基本的に生産者からの希望に応じて派遣し、急な病気などで作業が困難な場合には優先的に支援していく。

5月11日には、琴浦町のすいか生産者の1人が体調を崩して入院したため、圃場（ほじょう）で仲田恭平支援隊員と琴浦営農センターの営農指導員2人が交配作業を支援した。

すいか生産者は「時間が限られ、人手が欲しいときだったので助かった」と安堵の表情を見せており、仲田支援隊員は「生産者、組合員のためにできることを精一杯サポートしていきたい」と話した。



### 3. 「ふるさと」の味 全国にお届け！（コロナに負けるな。県産にエール）

新型コロナウイルス感染拡大の影響で外出自粛が続く中、県外にいる家族や鳥取県民に鳥取県の農産物を送り食べてもらうことで“ホッと”した時間を過ごしてもらおうと、直売所の出荷物を詰め込んだ「ほっ鳥便」を企画した。鳥取県の平井伸治知事のメッセージも同封する。また、県の事業を活用し送料の半額を助成する。（上限1,000円）



管内のJA直売所で5月25日から6月30日まで実施し、農産物を通じてふるさとの味と活力を全国に届けていく。

期間中は各産地のメロンや特産「大原トマト」、県オリジナル品種長芋「ねばりっこ」などの特産品の他、旬の野菜、女性会手作りのケチャップや味噌なども取り揃えている。

ファーマーズ事業課の佐々木課長は「県産の新鮮でおいしい農産物を県外に送ることで元気を届けたい」と話した。